令和６年度　鹿児島市小・中連携研修会（南小，宇宿小，南中グループ）研究のまとめ

鹿児島市立宇宿小学校

１　研究主題

「生きる力」を育む効果的な教育活動の在り方
－小・中学校で一貫した共通実践を通して－

２　主題設定の理由

知識基盤社会化やグローバル化の進展に伴い，各学校では，児童生徒に，確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが求められている。

そのためには，地域社会や家庭との連携を深めるとともに，児童生徒の実態を踏まえ，９年間の学びの連続性を生かしながら，発達段階に応じた指導を充実させていかなければならないと考えた。そこで，これまでの研究の成果と課題を踏まえ，小・中学校が連携を密にし，一貫した効果的な指導の在り方を明らかにすることで，児童生徒の「生きる力」を育む教育活動を展開できると考え，本研究主題を設定した。

３　研究の視点

○　生きる力を育成するために，児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせる学習指導の展開
○　基本的な生活習慣を定着させるための，小・中で一貫した生徒指導の推進
○　個に応じた支援の充実を図るための児童生徒の「学び方」に応じた指導支援の充実

４　研修の日程

期日	会合名	場所	内容
５月 23 日 （木）	分科会協議資料提案 参加者確認書送付		
６月６日 （木）	推進委員会①	南中	小中連携研修会に向けての打ち合わせ。 （テーマ，議題の確認），資料の提出
６月 10 日 （月）	・小中連携研修会の資料作成（宇宿小担当） ・完成資料の送付（市教委３部，南中，南小）		
６月 17 日 （月）	小中連携研修会①	宇宿小	授業参観，分科会，全体会
６月 24 日 （月）	・共通実践事項の送付 →　各学校での実践		
11 月ごろ	小中連携研修会②	書面	共通実践事項の経過及び課題確認
２月７日 （金）	推進委員会②	南中	令和６年度のまとめ及び次年度の計画確認 小学校への出前授業の検討
２月 12 日 （水）	・小中連携研修会のまとめ作成（宇宿小担当） ・まとめ資料の送付（市教委３部，南中，南小）		

5　研究の実際

⑴ 共通実践事項

学力向上部会	○　学年に応じたタブレットを活用した授業づくり ○　学びの蓄積や振り返りの充実
生徒指導部会	**○　あいさつ指導** **○　基本的生活習慣の確立**
特別支援部会	○　個に応じた指導の工夫 ○　進路を見据えた指導と保護者への情報提供

⑵ 各校取組の様子

学力向上部会	（南中） 国語：まとめの段階で生徒相互に共有を図っている。 社会：授業後の課題を写真で家庭からロイロで回答させている。 数学：授業中の問題をロイロで回答させ相互に共有を図っている。 理科：実験を写真や動画で撮らせてまとめの活用と授業の振り返りをさせたり，単元のまとめカードを作成して記入させたりしている。 英語：英作文の学級プレゼンに活用し，教師やALTとの相互連携を図っている 美術：スケッチの元となるものの写真を撮り制作活動で活用している。 保体：動きを動画で撮ることで振り返りや改善点をチェックしている。 技術：作品の完成時に写真を撮り自己カード作成に利用している。 総合：事前調査やまとめ新聞にロイロなどを活用している。 （南小） ・　各学年で「シンキングツール」を活用することが単元の目標達成のサポートとなった事例の共有したり，「シンキングツール」「共有ノート」を活用できる単元を検討、授業で実施している。 ※　対話的な学びに視点を当てて，児童が「考えをもつ」「考えを話す」「考えを聞く」「考えを比べる」活動をサポートするもの ・　学年会等で、成果の共有をしたり，ツールに慣れる目的で研究授業を実施したりしている。 （宇宿小） ・　職員研修で、低・中・高学年に分けてそれぞれ授業で活用した事例を紹介し、情報を共有化している。学年によっては、ロイロノートで作成したワークシートを資料箱に入れ互いに活用している。 ・　史跡巡り学習等でタブレットを活用し、事前に調べ学習をしたほか、当日はTeamsで連絡を取り合い、事後もロイロノートでまとめたりする活動をした。 ・　グラフなどの統計資料を用いて、簡単な説明文を書く学習では、資料をそのまま取り込んでレポートとして作成し、互いに読み合う学習をした。 ・　国語の教科書を拡大したものをタブレットに送り、メモを取らせ個別指導に生かした。 ・　教科書のQRコードや企業の子供向けオンラインサイト（社会科見学の代替となる）を活用している。
生徒指導部会	（南中） ○　あいさつ指導 ・　生徒会生活部が下記のようなローテーションを組み，7:45から7:55まで正門に立ち，あいさつ運動を実施している。

	（月曜日：各学級生活部長，火～金曜日：１～４組生活部員） ○　基本的生活習慣の確立 ・　生徒会で8:05までの正門通過，8:15着席に取り組んでおり，生徒会生活部全体部長，副部長が「１分前」と書かれた黄色のボードを，8:15を過ぎると「チャイムが鳴っています」と書かれた赤色のボードを正門で掲げて早めの登校を呼びかけている。 ・　12 月９日に１年生を対象とした栄養教室を実施。給食センターから栄養教諭を招き，本校の残食状況や栄養に関する基礎知識，世界の食糧事情等について学ぶ。 （南小） ○　「にこにこ週間」の設定(学期始め) ・　全校朝会等での全体への指導 ・　各学級担任による学級での指導、「あいさつ標語」への取組・掲示 ・　児童会活動によるあいさつ運動週間の実施 ○　「保健指導強調週間」の設定(学期１回程度) ・　生活リズムチェックカードを通した意識付け ・　児童会活動(保健委員会)による児童集会での呼びかけ ○　学校保健委員会での取組 ・　アウトメディアチェックカードの記入による、自己管理の呼び掛け （宇宿小） ○　あいさつ指導について ・　全校集会で，校長先生よりあいさつについて話をした（語先後礼)。 ・　生活委員会が当番活動として毎朝あいさつ運動を実施している。また，学期１回程度「あいさつウィーク」として，良いあいさつをした児童にシールをあげるなどのイベントをしている。 ○　基本的生活習慣の確立について ・　「５つのあ」を合言葉に全職員で根気強く指導を行っている。 （あいさつ，あとしまつ，あつまり，あそび，あるき） ・　「５つのあ」を中心に，月ごとに生活目標を立て重点的に指導している。
特別支援部会	（南中） ・　個の困り感に応じて，個別での学習を行ったり，お互いに教えあう学習を行ったりしながら，それぞれの理解度を深めようとしている。 ・　生徒それぞれの進捗状況が異なるため，それぞれの学び方の特性を考えながら，指導するようにしている。 ・　保護者との連携を深めるために，細やかな情報の提供を心掛け，信頼関係を築くようにしている。 （南小） ○　個に応じた指導の工夫 ○　児童の特性に応じて、学習方法を工夫している。 ・　イメージの苦手な児童には、具体物を用いて場面の動作化を行う。 ・　書くことが苦手な児童には、穴埋めのワークシートを用いる、量の調整、書きやすいマス目、タブレットで文字入力、音声入力、板書を写真で撮る。 ・　読むことが苦手な児童には、読むときにリーディングスケーラーを使わせる。 ・　待つことが苦手な児童には、学習内容を事前に板書しておく。 ・　家庭学習の習慣が身に付くように、実態に合った課題を出す。 ○　進路を見据えた指導と保護者への情報提供 ・　教育相談（学期１回は必ず行う）で、中学校への進学のことやその後の進路につい

	て話題にし、保護者や児童が将来のことを意識できるようにした。高校への進学に当たっては、療育手帳の有無が関係してくることなどの情報提供を行った。 ・　通常学級に籍を移す希望がある児童については、家庭や本人と話し合いながら、通常学級での学習時間を増やし、支援学級で学習の補充等を行いながら様子を見ている。 ・　県民週間を利用して保護者に中学校の見学をすすめた。 ・　不登校児童について、夏季休業中に保護者を交えてケース会議を行い、改善策を話し合った。生活習慣の乱れ、遅刻傾向の児童についても教育相談を行い、話し合った。 （宇宿小） ・　国語・算数の基礎基本定着のため、授業で取り組んだ学習プリントと同じプリントをその日の宿題として出す。家庭でもその内容や取り組む姿などで理解しているのか確認でき、一度取り組んだものであるから児童も自信を持ってすることができる。それが定着と次の意欲につながっている。 ・　教科書を進めることができない児童には、生活単元や自立活動を中心に学習を計画している。 ・　文字の読み書きが苦手な児童には、板書をタブレットで撮影し必要なときに振り返ることができるようにしている。また、周りが気になる児童には、衝立で区切られたスペースを作ってそこで学習できるようにしている。クールダウンやリラックスができるように、畳・段ボールハウス・ハンモック・などの落ち着く場所の設定をしている。 ・　保護者が中学進学に向けて発達検査を実施。療育手帳申請の気持ちになられた。教師の働き掛けもあり、子どもの実態を客観的に受け止められるようになられた。

⑶　成果

学力向上部会	（南中） ・　タブレットを活用する頻度が多い教科は，生徒も扱い方に慣れて生徒相互の情報共有などもできている。 ・　学習のまとめなど紙媒体と比べて誰が提出しているのか分かり，一人一人への対応がしやすい。 ・　アンケート形式を取り入れることによって自己評価がしやすい。 ・　日常的にロイロを活用したりして授業時数が少ない教科では，写真や動画など活用している。 ・　ロイロでのまとめにおいては，1年生は10月からタブレットが全生徒にいきわたったが，小学校からの積み重ねがあり生徒が積極的に新聞作りや文化祭での発表プレゼンテーションを作って活用頻度が高かった。 （南小） ・　タブレットを授業の中で活用することが増え、授業の中で指導方法が広がった。 ・　児童の考えを集約しやすくなった。 ・　総合的な学習の時間で調べたことをまとめる際に、写真を入れ込んだり、フォントや色を変えたりすることでより分かりやすくまとめることができた。 ・　考えをもつときに、自分の考えに合ったシンキングツールを選んだり、テキストを使って割付を工夫してまとめたりと、自分の学習方法を選択することができるようになった。 ・　図画工作の作品の写真や社会の歴史の新聞、板書など、ノートを分けて整理することで、すぐに振り返ることができた。 ・　作った教材等を資料箱で保存していくことで、他の職員も使用することができた。

	（宇宿小） ・　職員研修で他の先生方の活用事例を知ることで、新しい使い方を学び、授業に生かすことができる。（全学年） ・　キーボード操作やタイピングスキルが上達し、CBT による鹿児島学力調査・学習状況調査のプレテストは、個人差はあるものの想像以上に多くの子供たちが受容できていた。（５年） ・　タブレット端末活用に子供たちも慣れてきた。（２年） ・　子供たちがまなびポケット・ロイロノートの送受信ができるようになった。（1年）
生徒指導部会	（南中） ○　あいさつ指導 ・　ほとんどの学級の生活部があいさつ運動に参加し，登校する生徒もあいさつを返して和やかな雰囲気で一日をスタートできている。 ○　基本的生活習慣の確立 ・　多くの生徒が８：０５までに正門を通過し，時間ギリギリで登校した生徒も生徒会の呼びかけに応じて，時間を守ろうと急ぐ姿が見られる。 （南小） ・　依然として個人差は見られるものの、気持ちよくあいさつができる児童は増えてきている。 ・　基本的生活習慣の確立については、家庭によって意識に差がある。意識の低い家庭にはなかなか呼び掛けが届かないが、学校からの呼び掛けで意識してくれるようになった家庭もある。 （宇宿小） ○　あいさつ運動について ・　あいさつが日常的に交わされる環境を整えることで，少しずつ児童のあいさつの意識が高まってきている。 ○　基本的生活習慣の確立について ・　共通理解をもとに指導することで，少しずつ児童の意識が高まってきている。
特別支援部会	（南中） ・　個によって，集中力が向上している様子もうかがえる。 ・　周囲の様子を見ながら，自分自身の取組に生かそうとする姿も見られる。 ・　進路について，早め早めの情報提供をすることで，療育手帳の取得につながり，進路決定に幅が出てきている。 （南小） ・　一人一人に合った指導で、何とかやる気に繋げている。 ・　少しずつだが学習の成果が出てきている。 ・　低学年の担任に進路を見据えた指導というのはなかなか難しいが、早い時期から保護者への情報提供を行うことで、家庭での取組も変わってくるように思う。 ・　中学進学に向けての教育相談は、順調に実施できた。 ・　市外から転入してきた家庭に療育センターを紹介したり、療育センターを長く受診していない家庭に受診を勧めたりしたことで、市の就学相談の準備がスムーズだった。 （宇宿小） ・　パターン化されてきているので、交流学級での学習よりはやや進みが遅れるが、着々と学習内容を理解してきている。 ・　生活単元や自立活動での学習は、具体的で理解もしやすく楽しく取り組んでいる。 ・　癇癪をおこしたときやパニックになったときにリラックススペースに行き、落ち着く

	ことができる児童が増えてきた。 ・　発達検査が終了し、療育手帳の申請をした。

⑷　課題

学力向上部会	（南中） ・　タブレットの充電を家庭でしてくるようにしているが，充電不足の生徒が多く，授業の始まりに充電不足に気付いて混乱することがあった。また，充電してもすぐに消費してしまうこともある。 ・　学力低下の生徒への指導に，昼休みや放課後などでないと時間がとれない。タブレット活用でなんとかできないか情報がほしい。 （南小） ・　タブレットを使う際のルールやマナーを守れない児童がいるので、継続して指導していく必要がある。 ・　シンキングツールのより効果的な活用方法がないか。 （宇宿小） ・　説明資料を作る作業は上達しているが、タブレットから目を離し、聞き手の顔を見て説明するプレゼン能力の向上（５年） ・　学力の低い子供にとっては、キーボード操作自体も難しく、タブレット端末上の文章を読んで、必要事項を読み取り、理解することが難しい（５年） ・ローマ字入力ができず、ひらがな入力している子供が多い（４年） ・課題が済むと、勝手に好きなゲームやお絵描きなどをしている子供がいる（４年） ・　タブレット自体にアプリが入れられない、スペースキーが使用できない、キーボードカバーでの入力に反応しないなど、タブレット端末自体の整備環境の問題がある。 ・　タブレット端末を持ち帰った際の管理の在り方（１年）
生徒指導部会	（南中） ○　あいさつ指導 ・　校内でのあいさつは改善しつつあるが，校外での地域の方へのあいさつが積極的にできていない現状がある。 ○　基本的生活習慣の確立 ・　不登校傾向の生徒等，遅刻してくる生徒が一部固定化している。生活習慣によるものか，家庭事情等の理由によるものか，不登校対策部会，生徒指導委員会で情報共有して個に応じた指導を心がけている。 ・　SNS の長時間の使用から生じる寝不足や体調不良が見られる。 （南小） ○　あいさつができている子をどう褒めるか。その場で賞賛することに加えて、なかなかできない子があいさつをしようと思うきっかけになるような褒め方ができないか。 ○　基本的生活習慣の確立について、意識の低い家庭への呼び掛け方、関わり方。 ○　スマホ・タブレット・ゲーム機の利用の仕方についての指導の在り方。 （宇宿小） ○　あいさつ運動について ・　あいさつを返せない児童も一定数いる。 ・　「あいさつウィーク」の取組が一時的な動機付けで終わってしまっている。 ○基本的生活習慣の確立について ・　昼休みの見届けの必要性があるが，十分な体制を整えられていない。

特別支援部会	（南中） ・　自分の課題に集中するまでにかかる時間に個人差があるため，邪魔をしてしまう時間帯も発生している。 ・　進路を考える際，支援学級に在籍中の生徒が，高校進学を強く希望するあまり，支援学級での学習を拒否したり，自分の成績を客観的に見つめることができなかったりすることがある。「自己理解」「進路選択」に時間がかかる。 ・　支援学級に在籍する目的が，高校受験のための学力向上になっている生徒がいる。 （南小） ・　それぞれの児童の課題や苦手なことが違い、一対一の学習の方が効果が出やすいため、計画的に個別指導を行っているが、その間、他の児童の学習がなかなか進まないことがある。 ・　集中力が持続しにくい、間違ったり、すぐにできなかったりすると意欲がなくなる、面倒くさがるなどのことも関係し、当該学年の習熟がなかなか難しい。 ・　中学卒業後の進路について情報を得たいという保護者が多い。中学校から小学校に情報を提供していただけるとありがたい。 ・　不登校や生活習慣の乱れ、遅刻傾向の児童について共通理解は図られたが、なかなか改善されていない。 （宇宿小） ・　文章読解に難があるために、何が問われているのか、どうように答えていけばよいのかなどの判断ができず苦労しているので、常に助言ができるようにしておかねばならない。 ・　生活単元や自立活動の指導計画の作成が難しい。児童の実態に合わせた目標設定や教材選定など。 ・　児童の個性をより輝かせるための手立て。学習支援の仕方や教材をどの到達目標に合わせて準備していくか。

⑸　次年度に向けて

学力向上部会	・　学年に応じたタブレット端末（シンキングツール）を活用し，思考力を高める授業づくりを行う。 ・　学びの蓄積や振り返りの充実，さらには発表力や表現力の育成に注力していく。
生徒指導部会	・　ＳＮＳに関わる上手な付き合い方やトラブル対応，さらには生活習慣との関連などメディアとの付き合い方を重点指導項目として位置付ける。 ・　様々な生徒指導事案において，学校と家庭の役割を明確にする。
特別支援部会	・　保護者や児童生徒に対する，早いうちからの進路指導を行っていく。 ・　タブレットに執着する児童生徒が多い現状から，タブレット使用のきまりを徹底させ，学校全体で統一した指導を徹底していく。 ・　早寝・早起き・朝ごはんなど，保護者と協力しながら，生活習慣の徹底を図る。